



作業の簡単な 釣込式桁架法

熊澤政一

これは大井川鐵道株式會社の第四號橋梁に於て數種の桁架法を比較研究の結果、特に考案して實施した簡便な工法である。要點を記して参考にとす。

桁 長 22.91 米

桁 重 量 21.6 キロトン

塔 柱 總 高 5.5 米 用材全部際、柱及笠木30種角。土臺木長5.5米兩側に突き出し前後兩桁より1.3耗のワイヤロープにて綾構を任拵へ風壓に備ふ。

起 重 機 鋼製長13.0米重量四噸元付け桁兩上突縁を軸受とす

主 繫 線 (固定)徑22.2耗ワイヤロープ 八 本

釣 込 み 線 徑22.2耗乃至13耗

ト ロ リ ー 本軸徑11.4 耗二臺鐵製組立後車は桁長の4/10の位置に又元付け桁後内部に約六噸のバランスウエートを加重す

手捲ウキンチ 二 臺 桁釣込み用

動力 同 10HP 一 臺 桁送り出し用電力使用

元付一釣込兩桁間の摩擦を減ずるため此の間を「ローラ」設備となす

作 業

(イ)釣 込 二時間半 横取共

(ロ)送り出及元付退避 平均二時間半 (遠近により差違あり)

(ハ)桁下し据付け 同 二 時 間

(ニ)其他軌條引延し等にて一日一桁の架設を了せり

備考 本方法にて元付桁長19.15米重量18.2「キロトン」のものを使用し釣込桁長22.91の作業をなしたるも實際に於て何等支障なかりき無論此の場合「バランスウエート」は増加せり。